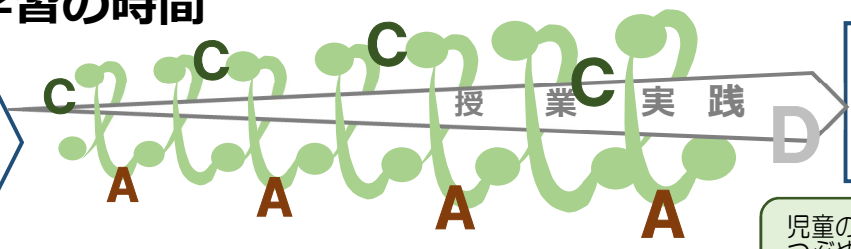
総合的な学習の時間

P 指導計画

・終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

児童の
つぶやきや
様相から Check！

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□ **Check2**
・自らの考えを広げ、深めているか
「なるほど」「そうだったのか」
「○○ということが分かった」
「○○については、どうなっているのだろうか」

課題の設定

□ **Check4**
・学んだことが関連付けられて知識及び技能が構造化しているか
「グラフで表すと変化の様子が分かりやすいな」

まとめ・表現

情報の収集

整理・分析

□ **Check1**
・自分の事として探究課題を設定しているか
「なぜだろう」「おかしいな」
「すごい」
「どうしてそんなことができるのかな」

□ **Check3**
・協働的に学んでいるか
「こんな理由があるから、自分と○○さんの考えは違うんだな。」
「やっぱりこれでいいんだな」

A 授業改善のポイント

☞自分の事として探究課題を設定するには（Check1）
・児童の実生活や実社会の問題の中から探究課題を設定することで、児童が身近な問題として考え、学習活動に取り組むことができます。
・児童が探究活動の終末のイメージとそこに至るまでの見通しをもつことができるようにすることが必要です。
・探究課題を設定するときに、児童が自身の経験や考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じられたり、探究課題について考える必然性を感じたりして、児童の学ぶ意欲を高めることが大切です。

☞自分の考えを広げ、深めるためには（Check2）
・新聞などにまとめて学習活動を振り返ることで、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりすることにつながります。また、新たな学びに向かう意欲にもつながります。
・振り返る活動は、単元の終末に位置付いていることが多いのですが、探究の過程で行うことも、これからの学びの方向を考える点で意義があります。
・これまでの学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既有の知識とを関連させ、自分の考えとして整理し、それを自覚したり共有したりすることが大切です。

☞協働的に学ぶためには（Check3）
・様々な考えや意見、情報をたくさん入手し、それらを手掛かりに子ども同士が自分の考えをやり取りしながら考える場を位置付けることが必要です。その際に、比較する、分類する、関係付けるなどの「考えるための技法」を用いることが有効です。このような場を通して、児童が自身の考えの変容を自覚したり、自分の考えに確信をもったりすることが大切です。
・探究課題は、自力で解決できるものではなく、様々な人の考えを聞いて解決に向けて考える課題を設定する必要があります。

☞学んだことが関連付けられて知識及び技能が構造化するためには（Check4）
・例えば、総合的な学習の時間で調べたことを、算数で学んだグラフを使って表すことで、グラフを使う状況の理解につながります。このように、子どもがそれまでに学んだことを基に、知識を構造化して深く理解して探究的な学びを進め、新しい知識を創造することが大切です。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。